



臨床研究に関する情報の公開

作成日:2018/12/01

研究課題名	ヨーロッパと本邦における IgA 腎症の臨床的特徴の比較調査研究
研究の対象	2016 年 1 月 1 日から 2017 年 12 月 31 日の間に北野病院腎臓内科で腎生検を受けられた IgA 腎症の患者さん
研究目的・方法	<p>IgA 腎症は世界で最も頻度の高い原発性糸球体腎炎であり、未治療の場合約 20 年の経過で約 40%が末期腎不全へと進行する予後不良な難治性疾患です。本症の有病率には地域差、人種差があることが知られています。しかし、遺伝的背景や環境因子、医療保険制度の違いによる発見動機の違いに起因するものかを比較検証した研究はこれまでにありません。本研究では、日本国内の医療施設から IgA 腎症患者の発症年齢、性別、血尿・蛋白尿の経過、eGFR(推算糸球体ろ過量)、炎症性腸疾患・扁桃炎の合併や治療内容などの情報を収集し、ERA-EDTA(欧州腎臓透析移植学会)と共同でヨーロッパと日本の IgA 腎症患者の臨床的背景を比較検証致します。</p> <p>研究期間：許可日 ～ 2020 年 3 月 31 日</p>
研究に用いる試料・情報の種類	腎生検時の年齢、性別、国籍、血尿・蛋白尿の経過、受診理由や発症からの経過、家族歴、内服薬、eGFR、炎症性腸疾患・扁桃炎・発疹・アレルギー性疾患の合併や治療内容などカルテに記載してある内容を用いて研究します。
外部への試料・情報の提供	データセンターへのデータ提供は、郵送にて、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、研究分担者の塚本達雄が保管・管理します。患者さんの情報は、個人を特定できる情報とは切り離れた上で使用します。また、研究成果を学会や学術雑誌で発表されますが、患者さん個人を特定できる情報は含みません。
研究組織	研究代表施設と研究代表者：順天堂大学大学院医学研究科 腎臓内科学 鈴木 祐介 全国 29 施設にて実施されます（研究参加施設は別紙）。
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障が無い範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができますのでお申し出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることは有りません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院腎臓内科 主任部長 塚本達雄 〒530-8480 大阪市北区扇町 2 丁目 4-20 電話：06-6312-1221</p> <p>研究責任者：公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院腎臓内科 主任部長 塚本達雄 研究代表者：順天堂大学大学院医学研究科 腎臓内科学 鈴木 祐介</p>



(別紙)

研究参加施設および研究責任者

東京慈恵会医科大学臨床研修センター 腎臓・高血圧内科	川村 哲也
東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科	横尾 隆
東京慈恵会医科大学附属第三病院 腎臓・高血圧内科	宮崎 陽一
東京慈恵会医科大学附属柏病院 腎臓・高血圧内科	小倉 誠
足利赤十字病院 内科	平野 景太
吉祥寺あさひ病院 内科	安田 隆
名古屋大学大学院医学系研究科 CKD 先進診療システム学寄附講座	安田 宜成
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 腎臓・高血圧内科	白井 小百合
聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科	市川 大介
昭和大学医学部 腎臓内科	柴田 孝則
帝京大学医学部 内科	藤垣 嘉秀
島根大学医学部附属病院 腎臓内科	伊藤 孝史
宮崎大学医学部 血液・血管先端医療学講座	藤元 昭一
長崎大学病院 腎臓内科	西野 友哉
東京女子医科大学 腎臓小児科	服部 元史
徳島大学医学部 小児科	香美 祥二
東京都立小児総合医療センター 総合診療科	幡谷 浩史
JCHO 仙台病院 腎センター内科	佐藤 光博
大阪市立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学	仲谷 慎也
福岡東医療センター内科	片淵 律子
琉球大学大学院医学研究科育成医学(小児科)講座	中西 浩一
和歌山県立医科大学 小児科	島 友子
大分大学医学部 内分泌・膠原病・腎臓内科学講座	福田 顕弘
新潟大学腎膠原病内科学	成田 一衛
東京女子医科大学 腎臓内科	森山 能仁
公益財団法人 田附興風会 北野病院	塚本 達雄
東京都保健医療公社大久保病院	若井 幸子
京都大学腎臓内科	柳田 素子
順天堂大学練馬病院	井尾 浩章
順天堂大学浦安病院	林野 久紀